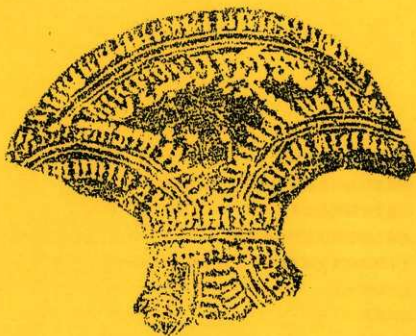


昭和63年度文化財年報

— 太子町文化財調査報告 —



分銅型土製品 (船遺跡第4次出土) 1/1

1989年10月

太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、昭和63年度に太子町教育委員会が実施した文化財事業及び調査の概要をまとめたものである。
2. 調査は、太子町教育委員会社会教育課三村修次・田村三千夫が行なった。
3. 本書の執筆は三村が行ない、編集は三村・田村が担当した。

目 次

1. はじめに	-----	1
2. 船庄荘園遺跡分布調査	-----	2
3. 埋蔵文化財分布調査（広坂・上太田地区）	--	5
4. 埋蔵文化財発掘調査	-----	6
5. 斑鳩寺講堂屋根葺替修理事業	-----	11
6. 太子町指定文化財調査	-----	14
7. 文化財防火デー	-----	20
8. 民俗資料	-----	21
9. 瓦銘調査	-----	22
10. 巨樹・巨木調査	-----	27

1. はじめに

太子町では、昭和63年年度に国庫補助事業として、61年度から継続事業の『鵜庄荘園遺跡分布調査』と『斑鳩寺講堂屋根葺替修理事業』が行われ、指定文化財の現況調査・保存修理が実施された。また、埋蔵文化財の緊急発掘調査とその保存事業を実施した。

社会教育課文化財係は、文化財の保護及び活用・文化財の啓発・埋蔵文化財の緊急発掘調査・民俗資料館の運営に係る事業を担当し、昭和63年度に行った事業は下記のとおりである。

昭和63年度文化財保存事業一覧

事業名称	所在地	事業主体	工事期間	備考
斑鳩寺講堂屋根葺替修理工事	鵜庄斑鳩寺	斑鳩寺	平成元年1月 平成元年12月	63～元年度2ヶ年 継続事業
鵜庄荘園遺跡分布調査	東南・東保・東出	太子町	昭和63年5月1日 平成元年3月31日	61～2年度5ヶ年 継続事業
埋蔵文化財分布調査	広坂・上太田	兵庫県 太子町	平成元年1月28日 平成元年3月31日	委託 尾野幸雄氏
町指定文化財調査(斑鳩寺)	鵜庄斑鳩寺	太子町	平成元年3月14日	委託 奈良大学 岡田英男教授
瓦銘調査	鵜庄斑鳩寺 阿曾字屋敷	太子町	昭和63年7月	斑鳩寺 正円寺
巨樹・巨木調査	町内	兵庫県	昭和63年10月	兵庫県農林事務所

2. 鶴庄荘園遺跡分布調査

1. はじめに 法隆寺領播磨国鶴庄は、播磨地方西部、林田川東岸に位置する。この起源は聖徳太子の岡本宮での勝蔓経講義にまで遡るといわれているが、鶴庄としては、平安時代後期の長久元年(1040)ごろに官省符荘として成立し、法隆寺が斑鳩寺を創建して荘園経営を行なった。

この鶴庄は多くの資料が残り、こりまで文献資料による研究は行なわれてきたが、より多角的な視点からの総合的研究が望まれるようになり、特に近年の都市化に伴い、地割や水利・耕地慣行など現地にも即した調査を早急に実施する必要が出てきた。そのために昭和61年度から鶴庄荘園遺跡分布調査を実施してきた。

昭和63年度調査を行なった東南・東保・東出地区は、荘地域の東南部に位置し、東南に檀徳山を望む。中央を東西に国道2号線が通り、交通の便がよいために近年宅地化が著しく、早急に調査を実施する地区であった。

2. 調査の目的と方法 荘園故地を総合的に調査・研究し、予想される景観の変貌にささいして、現状を記録して保存するとともに、後世の活用役に役立てる。また、調査の主題も鶴庄の調査にとどまらず、地域の現状を正確に把握して記録するため、綿密な聞き取り調査と現地調査を実施する。

(1) 灌漑調査	井堰名称と位置確認 用水路の名称と位置確認 水がかり範囲の確認	調査済	調査済	調査済
(2) 地名調査	大字小字境の確認 耕地一枚一枚の通称地名	調査済	調査済	調査済
(3) 地籍図・土地台帳調査		調査済	調査済	調査済
(4) 文献史料調査	中世・近世・近代文書 村絵図・水論絵図	調査済	調査済	調査済
(5) 金石文調査		調査済	調査済	調査済

3. 調査員の構成

調査委員長	田中 琢	奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター長
副委員長	栗岡 清高	太子町馬場地区総代・荒河水利管理者
委員	岩本 次郎	奈良国立文化財研究所 情報資料室長
	栄原 永遠男	大阪市立大学文学部助教授
	小林 基伸	兵庫県立歴史博物館学芸員
	高橋 学	立命館大学非常勤講師
	武田 謙一	元太子町鶴地区総代会会長・元赤井水利管理者
	梶木 良夫	大阪市立大学大学院 文学研究科

4. 調査日誌

昭和63年 4月 5日 6日 7日	第一回鶴庄荘園遺跡分布調査委員会開催 鶴地区の調査経過報告（実績報告） 播磨国鶴庄現況調査報告Ⅰ 東南・東保・東出地区の調査内容と日程
昭和63年 5月21日22日	第二回鶴庄荘園遺跡分布調査委員会開催 播磨国鶴庄現況調査報告Ⅰの反省点 調査地区の文書・絵図・字限図調査 播磨国鶴庄絵図のレプリカ調査（県博）
昭和63年 7月12日13日	東南・東保・東出地区の現地聞き取り調査 水利・耕地・慣行・通称地名の聞き取り
昭和63年 8月27日28日29日	東南・東保・東出地区の現地確認調査 水かがり・金石文
昭和63年10月 3日 4日	播磨国鶴庄現況調査報告Ⅱ作成資料の整理 鶴地区資料の再確認調査
昭和63年11月 7日 8日	東南・東保・東出地区の現地水利確認調査
昭和63年12月 5日	播磨国鶴庄現況調査報告Ⅱの最終打ち合わせ
平成元年 3月 1日 2日 3日	東南・東保・東出地区調査資料の整理 播磨国鶴庄絵図調査（法隆寺）
平成元年 3月27日28日	播磨国鶴庄絵図調査（法隆寺）

3. 埋蔵文化財分布調査 (広坂・上太田地区)

はじめに 昭和63年度、兵庫県教育委員会の協力で、太子町広坂・上太田地区の埋蔵文化財分布調査を平成元年1月から3月までに実施した。

調査結果 太子町広坂では、向池の南岸において須恵器片の散布が認められ、池の北に面した南斜面に石棺材が8点散在していることから、箱式石棺が所在するものと考えられる。

太子町上太田地区は、上太田自然公園整備事業として桜山貯水池の南西部の分布調査を実施したが、遺跡・遺物の散布は認められなかった。

調査概要

太子町上太田地区埋蔵文化財分布調査概要 平成元年3月20日			
事業区域名	太子町広坂北山地区		
分布調査区域	太子町広坂北山 (7.1ha)		
調査主体者及び調査責任者他の氏名	太子町教育委員会 尾野幸雄		
調査の期間	(自)平成元年2月5日 (至)平成元年2月20日		
調査日数	5日		
調査員人数	5人		
事業の種類	分布調査		
調査事業の担当課名	太子町総務課		
調査の概要	遺跡の有無	有・無	確認調査 必要・不必要
	採取遺物量	77件 1箱 (9点)	保管場所 太子町教育委員会
結 果	遺跡の名称	向池遺跡	
	所在地	新保原太子町広坂字向池	
	遺跡台帳番号	太子 16	
備 考	石棺の遺石が8点散在している 除の池畔周辺の2地点より須恵器片を採取した		

上太田自然公園埋蔵文化財分布調査概要 平成元年3月31日			
事業区域名	太子町上太田地区		
分布調査区域	太子町上太田 (42.11ha)		
調査主体者及び調査責任者他の氏名	太子町教育委員会 尾野幸雄		
調査の期間	(自)平成元年2月11日 (至)平成元年3月31日		
調査日数	28日		
調査員人数	28人		
事業の種類	分布調査		
調査事業の担当課名	太子町基幹事業本部		
調査の概要	遺跡の有無	有・無	確認調査 必要・不必要
	採取遺物量	77件 箱	保管場所
結 果	遺跡の名称		
	所在地		
	遺跡台帳番号		
備 考	遺跡・遺物は何等確認及び採集されなかった。		

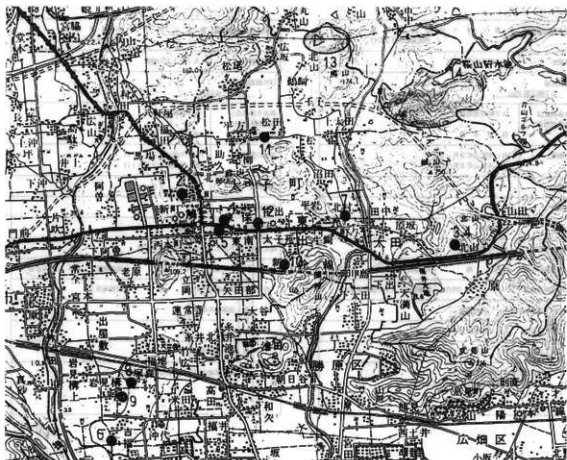
4. 埋蔵文化財発掘調査

はじめに 昭和63年度、太子町では緊急発掘調査8件、立会調査3件である。別表に示すように公共事業に伴うものである。

遺跡保存 平成元年度工事予定の『太子町公共墓園』造成工事内に3基の横穴式石室を持つ円墳（郷ノ谷2・3・5墳）を、関係当局の協力により設計変更によって保存を図った。

昭和63年度 太子町埋蔵文化財発掘・分布調査事業実施位置図

1:50000



昭和63年度 埋蔵文化財発掘調査 (1)

太子町教育委員会

No.	遺跡名	所在地	調査理由	調査期間	埋蔵物発見届	経費	埋蔵文化財保管書	実績報告書	
57-2,3		98-2							
1	船遺跡5次	東保字高田33, 33-1番地	駐車場造成工事ともなう			¥ 1,048,400-			
	昭和63年度	太教 217 S63. 4. 15.	63委保記第 63 S63.	教社文 S63.	S63, 4, 18, ~ 5, 19, S63.	太教 教社文3628-8 S63.	太教 208 S63.		
2	斑鳩寺遺跡5次	船字斑鳩寺 709番地	納経所建設工事ともなう			¥ 126,000-			
	太教 400 S63. 8. 22. S63. 8. 26.	教社文 S63.	太教 401 S63. 8. 26.	元委保記第5- 196 S63.	教社文1323 H 1. 9. 8.	S63, 8, 28, ~ 9, 1, H 1. 5. 10.	太教 232 H 1. 6. 16.	太教 376 H 1.	太教 17 S63.12.26.
3	郷ノ谷古墳群	原字郷ノ谷国有林 569	太子町公共墓園造成工事ともなう			¥ 558,000-			
	太基 8 63. 8. 18.	太教 403 S63. 8. 26.	元委保記第5- 201 H 1. 7. 13.	教社文1323 H 1. 9. 8.	S63, 9. 1, ~ 9. 15, H 1. 5. 10.	太教 233 H 1. 6. 16.	太教 377 H 1.	太教 29 H 1. 1. 23.	
4	郷ノ谷古墳群 2・3・5期	原字郷ノ谷国有林 569	太子町公共墓園造成工事ともなう			(¥ 558,000-)			
		太教 441 S63. 9. 21.	63委保記第2-6595 H 1. 7. 13.	教社文1323 H 1. 9. 8.	S63, 9. 26. ~ 10. 18, H 1. 5. 10.	太教 233 H 1. 6. 16.	太教 377 H 1.	太教 29 H 1. 1. 23.	
5	船遺跡6次	船字堂ノ内1410番地	中央公民館増築工事(ふれあい広場)ともなう			¥ 573,000-			
	太教 410 太教 410 63. 9. 5. 63. 9. 5.	教社文	太教 411 S63. 9. 5.	元委保記第5- 193 H 1. 7. 13.	教社文1323 H 1. 9. 8.	S63, 9. 20. ~ 9. 28, H 1. 5. 10.	太教 234 H 1. 6. 16.	太教 378 H 1.	
6	吉福遺跡	吉福字ハカマ	128番外13筆 町道吉福〜村中線道路改良工事	(L=250m, W=4m)ともなう		¥ 169,000-			
	昭和63年度	太教 543 S63.11.18.	64委保記第5- 17 H 1. 7. 13.	教社文1323 H 1. 9. 8.	S63, 11. 24. ~ 11. 26, H 1. 5. 10.	太教 235 H 1. 6. 16.	太教 379 H 1.		
7	太田・北村遺跡	太田字北ノ口	416-1外15筆 町道松ヶ下国道線道路改良工事	(L=400m, W=2.5m拡幅)ともなう		¥ 2,317,000-			
	太建 239 太教 498 63.10. 1. 63.10. 1.	教社文	太教 546 S63.11.22.	元委保記第5- 390 H 1. 7. 13.	教社文1323 H 1. 9. 8.	S63, 11. 28. ~ 12. 28, H 1. 5. 10.	太教 236 H 1. 6. 16.	太教 380 H 1.	
8	福地・相坂遺跡	福地字相坂 663-1外 6筆	町道中道跨線橋新設工事	(L=250m, W=7m)及び吉福水路改修工事	(L=250m, W=2.3m)に伴う	¥ 2,600,000-			
	太建 240 太教 499 63.10. 1. 63.10. 1.	教社文	太教 544 S63.12.16.	元委保記第 6 H	教社文 H	S63, 12. 19. ~ 12. 24, H 1. 5. 10.	太教 237 H 1. 6. 16.	太教 381 H 1.	
9	岩見橋遺跡	吉福字炭屋裏	415-4 2筆 町道下橋〜相坂線新設工事	(L=140m, W=4m)ともなう		¥ 280,000-			
	太建 241 太教 500 63.10. 1. 63.10. 1.	教社文	太教 543 S63.12.16.	元委保記第 6 H	教社文 H	S63, 12. 26. ~ 12. 28, H 1. 5. 10.	太教 238 H 1. 6. 16.	太教 382 H 1.	

昭和63年度 埋蔵文化財発掘調査 (2)

太子町教育委員会

No.	遺跡名	所在地	調査理由	経費			埋蔵文化財保管書	実績報告書
				埋蔵物発見届	調査期間			
57-2,3		98-2						
10	栗原遺跡	東南字栗原 391-1外29筆	町道東南～村東線改良工事 (L=200m、W=5m) にともなう					
	太建 240 太教 499 63.10. 1. 63.10. 1.	教社文	立合調査	H 1. 2.27.	太教 239 教社文 600 H 1. 5.10. H 1. 6.16. H 1.	太教 383		
11	松田南遺跡	佐用岡字松田塚田	県道上太田～船線道路交通事故防止対策事業にともなう 県教育委員会からの 依頼による。					
12		東保字東川	東保歩道橋建設工事にともなう 立合調査					

昭和63年度 埋蔵文化財分布調査

No	遺跡名	分布調査地	調査理由	調査担当者	調査期間	遺跡の有無	備考
13	向池遺跡	太子町広坂字向池周辺	太子町工業団地整備事業に伴う	尾野幸雄	平名元年1月28日	向池遺跡・箱式石棺	確認調査が必要
14	上太田遺跡	太子町上太田(桜山貯水地)周辺	上太田自然公園整備事業に伴う		平名元年3月31日	無	

5. 斑鳩寺講堂屋根葺替修理事業

昭和63年度

重要文化財（美術工芸品）保存施設

斑鳩寺講堂屋根葺替修理事業設計書

（兵庫県揖保郡太子町鳩 709番地）

1. 建造物の概要

(イ) 工事の対象の名称等

県別	名称・構造形式	建造物の大きさ			備考
		平面積	軒面積	屋根面積	予算額
兵庫	斑鳩寺講堂 桁行五間、梁間五間 一重、入母屋造、 向拝一間、本瓦葺	218.2m ²	394.8m ²	556.7m ²	

斑鳩寺講堂内に重要文化財（彫刻）木造釈迦如来坐像
重要文化財（彫刻）木造如意観世音菩薩坐像
重要文化財（彫刻）木造薬師如来坐像の三体が安置されている。

(ロ) 指定年月日

明治34年8月2日

昭和25年9月29日

2. 破損状況

区分	屋根	軸部	基礎	雑作	傾斜・弛緩	その他
破損程度	大	中	小	中	中	指定彫刻は保存良

(イ) 概要

堂内に安置されている重要文化財の仏像三体は、内陣奥の後陣仏壇上にあり、

保存状態は良好である。

講堂は江戸時代明和六年（1769）建築になり、建築以来根本修理は行なわれていないが、昭和40年代（昭和41・42年）に背面屋根の東半分を雨漏りによる部材腐朽に伴い、化粧隅木の取替を含む屋根の部分修理を行なった。しかし、近年、屋根葺瓦全体の弛緩が著しく、室内随所で雨漏りが生じ、屋根野地の陥没箇所等もあり、仏像の保存にも影響が及ぶようになった。

(ロ) 屋根

葺瓦の大半は表面が劣化しており、割割や欠割が目立つ。また瓦の含水による葺土の崩れで平瓦の葺足斑が生じ、丸瓦や棟積瓦は積ずれが顕著にみられ、一部の軒先瓦は落下寸前の状態になっている。したがって、背面東半分を除く屋根は全般に耐用の限界に達している。

(ハ) 小屋組・野地

正面の東西両隅部に雨漏りがあり、箕甲尻部の野地・野垂木は一部に腐朽し、野隅木は一部朽落し、母屋や枯木もこの箇所腐朽がみられる。

そのほかでも野地全般に雨しみ跡がある。

(ニ) 軒廻

裏甲と瓦座の腐朽破損が全般に及んでおり、特に向拝の全面と正面両側の箕甲尻両側面の破風尻部及び蟻羽軒端は腐朽が顕著で、欠落箇所もある。

正面の西側箕甲尻部は木負や化粧垂木の一部が腐朽している。また、向拝では、化粧裏板の欠矢箇所もある。

(ホ) 柱間装置・造作

敷居鴨居や長押の取付きに隙間が生じ、全般に造作の仕口が弛緩している。

正面中央間や外陣側面の一部に建具欠矢箇所があり、また板扉の綿板欠矢や建付けの悪い箇所がある。

(ヘ) 防災施設 自動火災報知器の改修

昭和41・42年度に、講堂・三重塔・聖徳殿の3報知区域に自動火災報知装置を設置しました。発信・受信装置はP型1級とし、差動式分布型感知器を設置。

この受信機は、消防用機械器具等又は消火設備等の消防法施行令の規定に基づき昭和57年2月より受信期（P-1）火受第101号形式は期限失効の為、取替を要します。

6. 太子町指定文化財調査

1. はじめに 昭和54年度に文化財保護条例を制定しまして、町指定にした文化財は、下記の表に記載した絵画4幅・彫刻3体・古文書5件・無形民俗資料1・天然記念物1の合計14件を数える。

太子町指定文化財一覧表

指定年月日	名 称	員数	所有者・所在地
昭和55・1・29	絵画 聖徳太子絵伝	4幅	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	絵画 八草漫陀羅	1幅	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	絵画 大般十六善神画像	1幅	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	絵画 十二天画像	12幅	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	彫刻 石造地藏菩薩立像	1軀	福寿寺 太子町東保130
昭和55・1・29	彫刻 木造地藏菩薩立像	1軀	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	彫刻 木造聖徳太子立像	1軀	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	古文書 石見井組文書	53通	石見井組 太子町宮本214
昭和55・1・29	古文書 東保村文書	20通	東保自治会 太子町東保
昭和55・1・29	古文書 斑鳩寺記録	5冊	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	古文書 斑鳩寺文書	5巻	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	古文書 太子伝抄	12巻	斑鳩寺 太子町鶴709
昭和55・1・29	無形民俗 お幡入れ		平方法伝哉保存会太子町平方
昭和55・1・29	天然記念物 斑鳩寺さざんか	2本	斑鳩寺 太子町鶴709

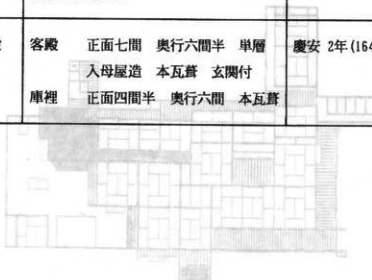
2. 調査内容 今年度太子町では、法隆寺領播磨国鶴荘の中心寺院である斑鳩寺の建造物調査を実施した。調査は、斑鳩寺太子堂・客殿及び庫裡・鐘樓の三箇所を、平成元年3月14日（火曜日）に、奈良大学文学部教授岡田英男氏によって行なわれた。

3. 調査結果 調査結果につきましては、岡田先生より下記の報告を受けた。

斑鳩寺の建造物

(兵庫県の近世寺建築より)

建造物名	構造形式	建築年代・備考
斑鳩寺三重塔	三間三重塔 本瓦葺	永禄 5年(1562)上棟 国指定重文
斑鳩寺講堂	正面五間 側面五間 一間向拝付 単層 入母屋造 本瓦葺	明和 6年(1769)上棟
斑鳩寺太子堂	正面五間 側面五間 一間向拝付 単層 入母屋造 本瓦葺	寛文 5年(1665)
斑鳩寺鐘樓	正面三間 側面二間 袴腰付 入母屋造 本瓦葺	附 銅鐘一口
斑鳩寺仁王門	三間一戸 八脚門 単層 入母屋造 本瓦葺	寛文11年(1672)
斑鳩寺薬師堂	一間社 春日造 柿葺 正面軒唐破風付	寛文頃 (三山王)
斑鳩寺客殿 及び庫裡	客殿 正面七間 奥行六間半 単層 入母屋造 本瓦葺 玄関付 庫裡 正面四間半 奥行六間 本瓦葺	慶安 2年(1649)



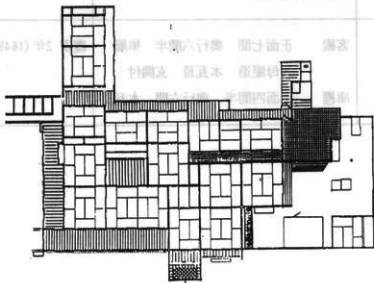
桁行22.9m、梁間13.0m、一重入母屋造、玄関付属、桁行 2.9m、
梁間 3.0m、本瓦葺

庫裏はもと斑鳩寺塔頭の宝勝院、古くは保勝院に属したもので、十七室からなり、前面に玄関が設けられている。東側に台所が接続しているが、これは後の増築である。居室は桁行に五列、梁間に三列が並び、上手は奥を納戸とし、中央が押板・棚・書院付きの八畳の座敷、その前に八畳の次の間、次の間の下手に十二畳が並び、広縁が二方に廻り、広縁に面する柱上には舟肘木を設ける。

玄関は土間の内法に式台を構え、正面に唐破風を設け、板戸を吊り込む。玄関の奥は八畳間と三畳間が続き、十二畳間に連する。十二畳間の奥を御内仏とし仏壇を設けているが、この部分は後の改造を受けている。奥・下手の緒室には一部改造が見られ東妻は台所接続のため軒廻りを撤去しているが、もと軒が廻っていたことは明らかで、入母屋造りとして独立した建物であった。座敷廻りでは一間ごとに柱の立つところが多く、座敷のトコを一段上げて押板とすることなどに古式の扱いが見られる。

『斑鳩寺記録』の慶安二年（1649）の頃に、春から秋にかけて保勝院を造営したことを記し、大工は亀山住人の市右衛門、住持は永智であった。ここに見える「六間十一間半」の規模は現在の庫裏と全く一致し、庫裏の形式手法も江戸時代初期と認められるので、この記録が現在の建物に関するものと認められる。

この庫裏は建立年代が明らかであり、規模もかなり大きく、古式の手法を持ち、保存も良好である。



斑鳩寺客殿及び庫裏

斑鳩寺鐘樓 一棟

桁行三間、梁間二間、袴腰付、入母屋造本瓦葺

附 銅鐘 一口

鐘樓は石積の基壇上に建ち、楼造で袴腰を設ける。下層は角柱を貫で固め、頭貫は用いずに台輪を置いて大斗をのせ、桁、梁を組み、桁行中央に小梁を架ける。二階は梁、小梁の上に丸柱を立て、切目長押、腰貫、腰長押、飛貫、内法長押を設け、桁行中央間を開放、その他は連子窓とする。柱上に台輪を置き、組物は出三斗とし、桁下全体に突肘木を作り出し、隅木下に持送りを入れる。軒は二軒、妻飾は前包の上に大瓶束を立てる。二階の縁は布縁とし、擬宝珠高欄を廻らす。二階内部は大梁の上に牛梁を渡し銅鐘を吊っている。

大棟の臈に天正二十年（1592）の銘があり、『斑鳩寺記録』によると、鐘は但馬楽音寺の永正十一年（1514）の鐘が施入されていたが、破損したために元禄六年（1693）古鐘に新銅を加えて再鑄した。この時鐘樓も礎石を重ね、柱を取替え、建物を高く修造された。

現在の建物は江戸時代中期の形式手法を示すので、元禄六年に現状の形に再建されたものと考えられる。同年代の銅鐘とともに保存されており、伽藍構成上にもその価値が認められよう。



写真

斑鳩寺鐘樓 一棟

銅鐘は銘文によると

(年・月・日・施主・作者など)

『斑鳩寺記録』と一致する。小型の鐘ではあるが、江戸時代の鐘は第二次世界大戦中にほとんど供出され、残存するものは多くないので鐘樓と併せて保存する価値が認められる。

斑鳩寺梵鐘銘

(第一区)
播州預東郡鶴庄斑鳩寺

元禄六癸酉年四月下旬

松尾氏西祐

(又西門門)

湯淺氏定純

(又西門門)

井上氏祐清

武本氏宗清

平井氏政勝

(第二区)
治工姫路野里之住

田中吉重郎吉忠
同 助六家次

同 五郎兵衛直矩

○『斑鳩寺記録』元禄六年 鐘銘に鐘樓堂銘理事にはこの記録についての記述がある。第一区の傍注はこれによった。また堂銘理は、大工町西馬場村佛右衛門正純によつて行われ、四月十二日に修慶供養を行ない、五月一日には初めて鐘をついたことも記されている。

なお同書によれば、この鐘は慶長五年に赤松広通から当寺に寄進された旧但馬国赤音寺梵鐘を鐘直したものであるという。さらにこの時、元来の鐘樓堂の基礎の上に石を重ね、柱を取替える修理を施したという。

太子町鶴 斑鳩寺鐘樓



桁行五間、梁間五間、入母屋造、正面向拝一間、本瓦葺

聖徳殿前殿はもと聖徳太子像をまつていた建物であるが、明治四十三年から大正三年にかけて背面に中殿及び奥殿を増築して太子像を移し、現状では前殿となっている。

前殿は五間四方、内部中央三間四方を内陣、周囲一間通りを庇とし、正面は外陣となる。柱は丸柱、側柱上の組物は出組、中備は蕨股とし、隅に持送りを付け、軒は二軒繁垂木、妻飾は大虹梁上に大瓶束を立てる。周囲は切目長押、内法長押を廻らし、周囲三方は扉口、火燈窓で囲い、木口縁をめぐらすが、背面は中殿が接続したために柱間装置は撤去されている。

内陣柱にはちまきを付け、出組をのせて中備えは設けない。増築の際、背面中間柱二本を抜いて大虹梁を架け、切残した柱上部を受けている。正面は中敷居を入れ、両脇は格子戸、中央は網戸を入れるが、中央ももとは格子戸引違いであった。内陣側面も各間引違舞良戸であったが、現在では一部に戸が残るのみで開放となる。

外陣は化粧屋根裏とするが内陣は格天井を張り、後方中央部は一段上げて折上格天井とする。背面中央間では肘木、折上天井の支輪を切っており、もとここに仏壇、宮殿を構えていたことが明らかである。正面向拝は連三斗で手挟を組込み、中備は蕨股とする。

聖徳殿は『斑鳩寺記録』によると、天文十年（1541）当寺炎上の際に焼失し、同二十年に復興されたが、寛文四年（1664）再造に着手し、同五年に竣工した。建物の形式手法から見てもこれが現建物に当たると認められる。

前殿は背面部に大きな改造があり、正面の縁をコンクリートで継足し、向拝木階を棧橋に改めるなど増築等による変更が大きいが、旧状はほぼ解明出来ると思われる。当寺の伽藍構成上にも主要な位置を占め、江戸時代初期の手法をよくあらわし、太子像をまつるにふさわしい建物であるが、特に聖徳太子とゆかりの深いこの地方において歴史的な価値も認められよう。



写真



斑鳩寺太子堂

7. 文化財防火デー (第35回文化財防火デー)

目的 文化財防火デーの一環行事として、斑鳩寺において消防訓練を行ない、効果的な実践即応体制の確立を図るとともに、一般住民に対しての文化財愛護及び文化財についての理解を深めてもらう。

実施期日 平成元年1月22日 午前10時30分～午前11時

実施場所 太子町鶴709番地 斑鳩寺境内

実施参加機関 摂南消防署・太子町消防団・太子町教育委員会・斑鳩寺

想定 強風波浪乾燥注意報発令下の午前10時30分頃、太子町斑鳩寺内の講堂より出火折からの北西の風に煽われて延焼拡大、国指定重要文化財の三重塔へ延焼の危険がある。

主眼 斑鳩寺側の通報、初期消火訓練。
消防署、消防団及び関係者との連携活動の円滑化を図る。

***放水時の留意点** 斑鳩寺内の建造物への放水は行なわない。



写真 第35回文化財防火デー訓練風景



8. 民俗資料

はじめに 昭和53年12月1日に開館しました太子町民俗資料館は、太子町福地の民家を移築して復元したものであります。

資料整理 民俗資料館の資料充実のために、今年度も町民方々から多数の農具・民具資料を寄贈いただきました。

寄贈資料一覧

水車 から鋤・馬鍬

塚原一郎（太子町岩見構）

農具

森川広治（太子町上太田）

お旗入れの衣裳・長持ち・かめ

改野正典（太子町東南）

階段式押入れ・釘

山田東平（太子町原）

軍服

開発茂水（太子町原）

現在、資料・情報の蓄積や集中的な整理作業を促し、今後の資料の収集方針・活用の方法を考え、資料をご寄贈いただいた方々への報告という性格を打ちだしていく必要がある。

- 資料館の活動 7月22日 『古い時代の生活体験』で「わら」を材料に、わら草履・俵・わら縄・むしろなどを作成した。作成に当たって、「ワラジヤミダイ」「ヨコズチ」「ナワナイキ」などを使用した。
- 12月25日 資料館で餅つき（資料館内の資料を使用しておこなった。）
- 12月10日 太子町家庭教育学級で「しめ縄作り」を東中学校において実施した。

9. 瓦銘調査

1. 調査に至る経過

太子町内には、江戸期や近代初期に建てられた寺社・個人住宅が少なからず残されているが、そのなかには、文字の刻まれた瓦を使用している例が散見される。斑鳩寺等の調査から、この時期に、地元の瓦大工として三木氏が活躍していたことが知られているが、これらの文字瓦のなかには、彼等の足跡が残されたものも多く見られる。

近年、取り壊しや改修工事によってその瓦が失われてしまうおそれが出てきた。そのため、町文化財審議委員の蔵屋信一氏・山本隆氏らに依頼し、銘文のある瓦の調査を行った。

2. 調査の結果

以下の場所から文字瓦が見つかった。

斑鳩寺	太子町鶴字斑鳩寺	改野家	太子町東南
善導寺	太子町竹広 185	桑田脩家	太子町老原 335
照雲寺	太子町広坂字東垣内	塩津家	龍野市広山
正円寺	太子町阿曾字屋敷	稗田操家	太子町松尾
大歳神社	太子町原	稗田猛家	太子町松尾
		平井元世家	太子町鶴
		三木健家	太子町鶴
		森沢清数家	太子町東出 212
		柳生巧家	太子町佐用岡 590

これまでの調査の結果、74点の文字瓦が確認され、うち30点は紀年銘を持つ（第1表）。この他にも、斑鳩寺三重塔などで紀年銘を持つ瓦の所在が伝えられているが、現在、町教委でくわしい確認がされておらず、また、拓本等を保管していないので、除外させてもらった。また、瓦師は第2表のとおりである。

	南面		干時 明和六年巳丑二月中旬始之 瓦師當所三木庄兵衛 現世安穩 作之 後生善處 南無阿弥陀佛 當寺雙樹院大忍禪妙志 記之			
1769 (明和 6)	斑鳩寺 講堂 南面	16	丸瓦	斑鳩寺本堂之瓦 号 明和六年巳丑二月十七日始之 瓦師當所三木庄兵衛 現世安穩 造之 後生善處 當寺双樹沙門妙志 南無阿彌陀佛 記之	(3)	
1769 (明和 6)	斑鳩寺 講堂 南面	17	丸瓦	斑鳩寺本堂之瓦也 明和六年巳丑二月中流 始之 瓦師當 三木伊八郎 現世安穩 造之 後生善處 當寺雙樹院妙志識之	(3)	
1769 (明和 6)	斑鳩寺 講堂 南西隅	14	隅巴	播列觸住人藤原氏 瓦師屋 三木庄兵衛 明和六歲 丑二月十七日	(1)	
1771 (明和 8)	斑鳩寺 講堂 東妻北側	6	降鬼	觸柱人 三木庄兵衛	明和八年 寅ノ土相吉日	(1)
1771 (明和 8)	斑鳩寺 講堂 東妻南側	7	降鬼	觸柱人 三木庄兵衛	明和八歲 寅ノ土相吉日	(1)
1812 (文化 9)	正円寺 本堂	2	鬼瓦	文化九申年 五月日		
1812 (文化 9)	正円寺 本堂	3	鬼瓦	觸三木庄左工門 作人	文化九年 申五月吉日	
1812 (文化 9)	桑田籍家	1	鬼瓦	文化九年申年 五月日		
1812 (文化 9)	三木健家	2	平瓦	文化九 *年三月上旬 斑鳩庄觸小田作人茂七郎 三木庄兵衛 (刻印)		

太子町内紀年銘瓦集成

年号	使用建物及位置	番号	種類	銘文	文献
1551 (天文20) か	(斑鳩寺 庫裏保管)	1	鳥伏 間瓦	同人□□ 御太子御賣前瓦天文二□□ 助兵□□ □□□	
1565 (永禄8)	斑鳩寺 弥勒堂 南西隅棟	1	伏間瓦	永禄八年 ^{キノノ} 九月十三日	(2)
1718 (享保3)	正円寺 本堂	1	鬼瓦	享保三年 藤原氏 □□□□□□ 住人 三月日 仁左工門 藤原氏治兵□作之	享保三戌月日 三木氏
1720 (享保5 or32 or17)	普導寺 本堂	1	鬼瓦	享保 ^巳 子之年四月日	
1754 (寶歴4)	斑鳩寺 弥勒堂 南東隅棟	2	伏間瓦	寶歴四戌年四月日 南無阿弥陀佛 久右工門(刻印)	二ノ五 (2)
1812 (文化9)	正円寺 本堂	2	鬼瓦	文化九年甲年 五月日	
1765 (明和2)	斑鳩寺 講堂 向拝東端	1	獅子付 留蓋	瓦師 三木与兵衛 作之	明和二酉 八月日 (1)
1765 (明和2)	斑鳩寺 講堂 向拝西端	2	獅子付 留蓋	播判措西部 作人龍野住 瓦師 三木与兵衛	明和二酉 八月日 (1)
1769 (明和6)	斑鳩寺 講堂 北西隅棟	3	二の鬼	明和六年 丑ノ五月吉日	庄兵衛作 治七郎 (1)
1769 (明和6)	斑鳩寺 講堂 北西隅棟	4	隅鬼	明和六年 丑ノ五月吉日	三木庄兵衛作 治七郎 (1)
1769 (明和6)	斑鳩寺 講堂 北面西側	5	降鬼	明和六年 丑ノ五月吉日	觸住人藤原氏三木 庄兵衛作 治七郎 (1)
1769 (明和6)	斑鳩寺 講堂 向拝部	8	丸瓦	明和六年巳丑二月十七日 始之 瓦師當所 三木伊八郎 造之 現世安穩 後生普處 當寺雙樹沙門妙志記之	(1)
1769 (明和6)	斑鳩寺 講堂	15	丸瓦	斑鳩寺本堂之瓦	(3)

1824 (文政 7)	塩津家	1	鬼瓦	文政七 年菽月日 いかるかかわら志龜治部	
1840 (天保11)	正円寺 本堂	4	鬼瓦	干時天保十一〇〇三月上旬 斑旭之庄藤原姓三木氏	
1840 (天保11)	正円寺 本堂	5	鬼瓦	天保十一年 〇五月 三木 庄兵衛	
1840 (天保11)	斑鳩寺 柳生巧家所藏	1	鬼瓦	天保十一年八月上旬 イカルカ藤原氏 三木庄兵衛作人 同同次太郎	
1845 (弘化 2)	平井元世	1	鬼瓦	弘化二年 巳三月日三木庄左衛門	
1859 (安政 6)	森沢清数家	1	鬼瓦	安政六未年 イカルガ小田町 三木庄兵衛	
1877 (明治10)	桑田脩家	3	鬼瓦	龍野住人 三木与兵衛 作之	明治拾年 丑四月日

この表は、現在、太子町教育委員会でその所在を確認している紀年銘瓦を年代順に並べたものである。
文献の(1)は太子町文化財資料第1集『斑鳩寺講堂屋根瓦Ⅰ』1989, 6., (2)は太子町文化財資料第2集『斑鳩寺弥勒堂瓦銘』1989, 7., (3)は太子町文化財資料第3集『斑鳩寺講堂屋根瓦Ⅱ』1989, 9., (いずれも太子町教育委員会)である。

1091 or 1130 (寛治 5 or 大治 5)	斑鳩寺 出土品		丸瓦	□治五年 □□瓦	
--------------------------------	------------	--	----	-------------	--

	紀年銘を持つ瓦からわかるもの	推定されるもの
享保（1720）頃	藤原氏 仁左衛門 藤原氏三木氏治兵衛	
宝歴（1745）頃	久右衛門	
明和（1770）頃	三木与兵衛 三木庄兵衛 三木治七郎 三木伊八郎	藤原氏三木十五郎 仁兵衛 善右衛門 清六 藤右衛門 吉兵衛 源三郎
文化（1810）頃	三木庄左衛門 三木庄兵衛 茂七郎	
文政（1825）頃	亀治郎	時期不明のもの 藤原氏 三木 善四郎 三木 藤左衛門 三木 伊右門 龜三郎 保太郎
天保・弘化 （1840～45）頃	三木庄兵衛 三木庄左衛門	
安政（1859）頃	三木庄兵衛	
明治初期（1877）	三木与兵衛	

第2表 確認された瓦師の名前



10. 巨樹・巨木林調査

はじめに 昭和63年度、環境庁において自然保護行政の推進事業の一環として、巨樹・巨木林調査を全国的に実施された。太子町においては、12月に各社寺の境内・墓地等の巨樹・巨木林調査を行なった。

調査結果 太子町では、11箇所において幹周りが3m以上の巨樹・巨木が、15本確認されました。このほかに、幹周りが2m以上の巨樹・巨木が19本所在することが判明した。

太子町内の巨樹・巨木一覧表

(幹周りが3m以上)

所在地	樹種	幹周りcm	樹高 m	生育状態
斑鳩寺 太子町鷺字斑鳩寺748	くすの木	315	18	単木
小林家 太子町鷺字上之町621	むくの木	370	16	単木
稗田神社 太子町鷺字八幡分926	むくの木	314	10	樹林
稗田神社 太子町鷺字八幡分	むくの木	393	18	樹林
稗田神社 太子町鷺字八幡分	むくの木	320	7	樹林
稗田神社 太子町鷺字八幡分	いちょうの木	301	14	樹林

所在地	樹種	幹周りcm	樹高m	生育状態
山本家 太子町松尾字吉良305	かしの木	300	6	単木
小山家 太子町馬場字樋ノ上299	むくの木	322	5	単木
阿曾墓地 太子町阿曾字三味ノ本	むくの木	317	16	単木
下阿曾墓地 太子町下阿曾字宮ノ前	むくの木	300	14	単木
中山家 太子町老原字了源寺山	むくの木	300	15	単木
常全建速神社 太子町常全字日蓮寺	むくの木	396	12	樹林
岩見構荒神社 太子町岩見構字丸町	むくの木	357	16	単木
岩見構荒神社 太子町岩見構字丸町	むくの木	316	16	単木
原大歳神社 太子町原字南町	むくの木	380	16	単木

